

<東北地区納税貯蓄組合連合会長賞>

## 学んで見えてきたこと

南会津町立田島中学校

3年 ばば みさき  
馬場 美沙希

私は今まで、自分の生活と税金のつながりについてしっかり考えたことがありませんでした。正直、身近にある税金でぱっと思いつくのは消費税くらいです。それにどこか損をするようなイメージがありました。税金が何に使われているのかがはっきり理解できていなかったからだと思います。

そんな私の考え方を改めるきっかけになったのは、社会科の授業で行った税の講習会でした。講師の先生から税金の種類や必要性について説明を受けました。中でも印象に残ったのは、義務教育の9年間でかかる教育費は一人あたり約800万で、それらを税金で支払っているということでした。あるのが当たり前と思っていた学校の教材や備品が税金で購入されていたことを初めて知りました。また、私たちの学校は一昨年からは耐震工事が始まり、校舎は見違えるほどきれいになりました。そこにも税金が使われていることに気づきました。「損をする」どころか、税金は私たちの学校生活を「支えてくれる」ものだということを実感しました。

それだけではありません。そのとき見たビデオの中に興味深い内容がありました。「税金の無い世界」です。その代償として、消防車や救急車を呼ぶ緊急の場合にお金を支払うようになる、災害や老朽化で破損した道路も整備できない、ゴミの収集や処理ができなくなるなど、私たちの生活に支障をきたす状況になることを例示していました。私たちの生活や命が税金によって守られていたのだということを理解することができました。平成23年7月新潟・福島豪雨で父の実家の近隣が大きな被害を受けました。土砂崩れや道路の亀裂などひどい状態で、当時、父が通勤にも使う道だったこともあり、母と二次災害がないかと心配していたことを覚えています。しばらくして道路が整備され、崩れた山の斜面も補強されました。そういったところにも税金が使われていたことを知

りました。

今回の講習会や税の作文を書くことによって、税金の必要性を確かめることができました。税金の一つである消費税は、今後8%、10%と段階的に引き上げられるとインターネットのニュースで知りました。親は危機感をもっているようですが、講習会での配付資料を見ると、アイスランドやハンガリーでは25%の消費税を支払っていると書かれていました。10%が多いかどうかは今の私にはイメージすることができませんが、税金を納めているのは日本ばかりではないということ、税金は私たちの暮らしを支え、守り、豊かにしていくものだということはわかりました。これからの社会は少子・高齢化が進み、税金を集めることも大変になってくると思います。でも、私たちの住みよい暮らしのためにみんなで真剣に考えていく必要があると思いました。